



辻 真理子議員

**Q** 2024年度全国公立病院の約80%が赤字決算となった理由は

**A** 医療サービスは非課税であり仕入経費の消費税を控除できないため



#### その他の質問

・産後ケア事業について

**Q** 全国の公立病院の約80%が赤字決算となった理由は。

**A** 病院の提供する医療サービスは消費税が非課税のため、仕入経費の消費税を控除できず、医療機関の負担となっている。近年の物価高騰により医療機器や材料、光熱費などの仕入価格を押し上げ、病院が負担する消費税額が増加している。

**Q** 高額薬品の保険適用は妥当か。

**A** 新薬の開発によって、それまで治療困難であった疾患に対して有効な治療ができることは大きな医療的進歩である。患者さんの生活の質向上にも直結する。一方、高額薬品の保険適用により結果的に現役世代の保険料負担になることは、制度上の課題であり、今後は国における制度全体の仕組み作りが重要であると考えている。



▲彦根市立病院



野村 博雄議員

**Q** 通学路上の危険な空き家や死亡事故発生箇所への対策の推進は

**A** クッションドラムの設置や外側線の引き直し、カーブ区間の路面標示等対策を進める



#### その他の質問

・雪対策について  
・有効期限満了マイナンバーカードの保有等について  
・中学進学時の制服採寸等について  
・JR駅の改善について

**Q** 通学路上にある管理不全で危険な空き家への対策の推進状況は。

**A** 新たな条例を施行して当該空き家に近づかないようクッションドラムを1件設置した。今後も引き続き所有者に指導を行うとともに、パトロールにより危険性の状況把握に努め、状況によっては条例に基づく措置等の対応を行う。

**Q** 死亡事故が発生した道路の安全対策への取組は。

**A** 滋賀県警察本部や彦根警察署と現地で立会を行い、事故原因に応じた効果的な安全対策を警察指導のもと実施し再発防止に努めている。令和7年10月26日に発生した死亡事故については、捜査中のため詳細には示せないが、外側線の引き直しやカーブ区間の速度抑制を目的とした路面標示を施工する等対策を進める。



▲事故が発生した道路



北川 元気議員

**Q** 庁舎内での政党機関紙の勧誘・集金行為の実態と対策は

**A** 匿名での実態調査を含め、正確な状況把握と対応を検討する



その他の質問

- ・職員を守る条例の制定見送りについて
- ・新ごみ処理施設整備の新たな課題と今後の方針について

**Q** 他市において、議員による「しんぶん赤旗」の勧誘や集金が、職員への圧力となり行政の中立性を損なう問題がある。本市の実態はどうか。庁舎管理規則の許可を出しているのか。

**A** 現時点で執務時間中の勧誘事実は把握しておらず、規則に基づく許可申請の実績もない。職員の心理的負担など、正確な状況は全面的には把握できていない。

**Q** 立場上、職員は断りづらい。職員を守るため、匿名での全庁的な実態調査を行うべきではないか。

**A** 他市の事例を重く受け止め、匿名での全庁的な実態調査の実施も含めて職員の声を確認し、必要に応じて適切な対応を検討していく。



安澤 勝議員

**Q** 生活道路でもある狭あいな中山道の交通対策を真剣に検討すべきでは

**A** 可能な限り早期に事業化できるように努める



その他の質問

- ・佐和山トンネル出入り口の凍結防止設備の稼働基準は
- ・立花船町線の2か所の信号に右折矢印信号を設けるべきでは

**Q** 工事用仮設道路を活用して中山道バイパスとして事業化し、中山道の交通対策を真剣に検討すべきでは。

**A** 中山道線の交通安全対策は、令和4年3月に策定した「彦根市道路整備プログラム」において、名神高速道路彦根インターチェンジへのアクセス確保の必要性などから、延長約2.3kmの彦根インター線を将来の広域幹線道路として位置付けており、令和6年3月には、仮設道路を含め鳥居本町から小野町までの新幹線軌道沿いを通り、原町までの区間において、将来の道路事業を実施する路線として市道認定を行った。中山道において交通渋滞が発生し、市民生活に影響を及ぼしたことから、本市の非常に厳しい財政状況を踏まえ、可能な限り早期に事業化できるように努める。



▲狭あいですれ違いが難しい中山道



角井 英明議員

**Q** 加齢性難聴者への補聴器購入補助を検討しては

**A** 財政が厳しく補聴器購入補助は予定していない



その他の質問

- ・稲枝3小学校の統廃合問題
- ・彦根市の生ごみの処理

**Q** 加齢性難聴が及ぼす影響は。

**A** 会話が聞き取りにくくなることで家族や地域との交流が減り、孤立感や意欲低下を招き、認知機能の低下につながる可能性がある。

**Q** 補聴器購入補助を実施している市町の状況を把握しているか。

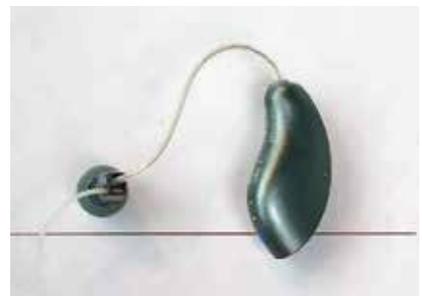
**A** 各市町の助成対象者、助成上限額、予算額、助成実績、財源などを把握している。

**Q** 補聴器購入補助を実施することの効果は。

**A** 高齢者の経済的負担が軽減され、購入をためらう人も入手しやすくなる。

**Q** 予算規模は大きくなり取り組めるのでは。

**A** 実施市町の予算額は約10万円から約400万円となっている。予算額としては大きくなり取り組めるのではとの見方もあるが、厳しい財政状況の中では費用のねん出が困難で現時点では購入補助は予定していない。



▲耳かけ型補聴器



森野 克彦議員

**Q** 「ひこねラーケーションの日」の現在の申請状況は

**A** 申請状況はのべ約1,100人となっている



その他の質問

- ・生徒会長公約実現事業について、事業内容拡充の見解は
- ・全国的に問題となっている学校での盗撮事件についての対応は

**Q** 「ひこねラーケーションの日」の現在の申請状況は。

**A** 本市においては、令和7年6月から令和8年3月末まで「ひこねラーケーションの日」の取組を試験的に実施しており、令和7年11月末までの申請状況はのべ約1,100人となっている。

**Q** 取得の目的は。

**A** 大阪・関西万博が51%、国スポ・障スポが14%、歴史や文化にふれる活動が12%、屋外での体験活動が11%、その他、学習関連施設の訪問、音楽を鑑賞する活動、職場体験的な活動などがあった。

**Q** プラスの効果として確認できた内容は。

**A** 体験を通じてこれからも挑戦しようという気持ちが高まり有意義な学びとなった、家族で大自然を感じたり感動体験ができてよかった、土日に仕事のある家庭にとってありがたかった等の効果が確認できた。



▲「ひこねラーケーションの日」のリーフレット